

西村町長の政治姿勢

所信表明

6月17日から24日にかけて開催された第2回町定例議会。西村博則新町長が所信を表明し、町民の代表である町議会に新しい町づくりについて自らの姿勢を示しました。

「厳しい財政状況の中、10年後20年後の将来人口や年齢構成を見据えた明確な町づくりビジョンの構築、積極的な情報公開による「町政の見える化」、そして町民と一緒にになって考え、まちをつくる、共創による「町民が主役のまちづくり」を推進する新町長の政治姿勢をみなさんにお伝えします。

(所信表明を抜粋)

みんなが元気に“まち”を笑い合える

私は、多くの町民のみなさん一人お一人と直接お話をさせていたとき、町政に対する様々なご意見やご提言をいただきました。そこでみなさんが日々に言っていたのは、将来の暮らしへの不安でした。中で

本町には、水と緑が豊かで自然に恵まれた「自然豊かな顔」と熊本の「空」と「陸」の玄関口を有すなど生活利便性がすぐれた「都市型の顔」の2つ「顔」を合わせ持っています。このすばらしい素材を共存・調和・融合させ「町民のみなさんが、元気に笑い合えるまちづくり」の実現を目指し、みなさんと一緒に新しい益城町を築いてまいります。

近年、経済不況や少子高齢化の進展などにより、日本を取り巻く社会経済情勢は大きな変革の時期を迎え、その潮流は、本町においても大きな波となって押し寄せていました。また、地方自治体には、住民ニーズの多様化や地方分権の推進などで、自立した自治体として自らの地域のことは自分たちで決定し、その責任を自分たちが負う「自己決定・自己責任」が強く求められています。

こうした中、私は様々な問題について、町民のみなさんと意見を交わし「益城に住んで良かった」と思っていただけるような、町民と行政が一体となつた共創によるまちづくりに取り組みます。